

さざんか

第60号、2006年9月

暑かった夏もようやく終わろうとしています。7月末の豪雨は予想以上の被害をもたらしました。総雨量が1200ミリを超えるなんてこれまでの常識からは想像だにできないことでした。周りから見ると小さくみえる被害も、当事者にとっては致命的であることもしばしばです。被害を受けた方々のできるだけ早い立ち直りを祈っております。

それにしても最近の夕立はなんか熱帯のスコールのような降り方で、ここでもやはり温暖化というか日本列島の亜熱帯化を感じてしまいますね。記念すべき60号を迎えた本誌ですが、久しぶりに一月飛ばしてしまいました（8月は休刊しました）。特に記念すべき特集ありませんし、地味に迎える古希みたいな記念号となりましたが、地味で静かなこともまたそれなりに価値あることだと思ふことにしました。

ちまたでは飲酒運転による事故が相次いでいますが、1トン近くもある鉄のかたまりが時速60キロで走っているのですから、まさに車は使い方を間違えると走る凶器です。ここでも想像だにしない事故で命を失った人々やそのご家族のことを考えると胸が痛みます。人の命を救うために大勢の人間が日夜全力を尽くしている医療現場から見るとなんとも惜しい命の失い方だと思ってしまう。

年間の自殺者が3万人を超える一方で、100歳以上の人が、2万8千人を超えた長寿国ニッポンです。災害や事故にあうことなく多くの人が地味で静かにその寿命を全うできるような安全な国であり続けたいものですね。「いのち」について多くのことを考えさせられた今年の夏でした。

今月もたくさんの投稿をいただきました。ありがとうございました。広報誌というより患者さん、家族の方の文芸誌の側面がつよいこの「さざんか」。さらに沢山の方の投稿をお待ちしております。

病院からのお知らせ

- * 64列マルチCTという最新鋭の機種を導入いたしました。心血管造影も可能な優れたものの機種です。1.5テスラMRIと合わせて、更に高度で専門的な診断能力を発揮できるようになりました。ご期待ください。
- * 骨塩量が測定できるようになりました。骨粗しょう症の診断に有用です。予約なしで簡単に測定できますのでご希望の方は各科窓口までお申し出下さい。

私は長年、県立病院の看護婦（師）として働いて来ました。毎日多くの方々との出会いと別れを繰り返しながら貴重な体験とたくさんの教訓をいただきました。「須らく病者を師となすべし」。昔と一緒に勤務した某県立病院院長先生が座右の銘となさっていた言葉です。私は当時、脳出血の後遺症で入院されていた A さんに言葉について生涯忘れることの出来ない程きびしく教えられた事例があります。

A さんは旧日本陸軍の将校で鬼部隊長と異名をもっていらしたという軍人氣質の抜けない頑固なご老人でした。元日の当直勤務だった私は都合で外泊出来なかった患者さんへ新年の御挨拶をすませて勤務につこう、と少し早めに出勤しました。先ず、A さんから「明けましておめでとうございます・・・」と言い終わらぬうちに、「何がおめでとうだ。馬鹿野郎」と思いがけない罵声がとんで来ました。

何事かと立ちすくむ私に、「『元日や冥土の旅の一里塚』という句を知らないか、馬鹿」。第二の罵声です。私は頭から冷水を浴びた様に息を呑みました。正月の外泊も出来ず、面会もなく、今年はどうなるか？やっとなんか冥土の一里塚を通り過ぎたばかりの A さんは、おめでとうどころではなかったのです。私達が日常何気なく交わす挨拶でさへ、この様な受け止め方をなさる方もいらっしゃるのだ・・・。

A さんの心中を察し得なかった自分の未熟さに愕然とすると同時に、改めて仕事のきびしさとむつかしさを自覚させられた出来事でした。7 月には思いがけない豪雨が襲いました。水害のニュースを見ました・・・と思ってもかけない土地から思いがけない人の声で、「大丈夫ですか。無事ですか」とあちこちから見舞いの電話をいただきました。文通の途絶えがちな昔の知人からの励ましの声に、軽度ではありましたが、初めての浸水に茫然と落ち込んでいた私に、大きな力と元気を与えて下さいました。全国高校野球では四強を勝ち取った鹿児島工業の鮫島選手の「ナンチュハナラン」の言葉、喜びに湧いていた鹿児島県人の気持を代表する言葉でした。大きな感動と元気を下さった球児たちに、只、只、ありがとう・・・でした。

たった一言で生きる力と勇気をもったり、一言で死ぬほど絶望と苦しみを味わう事もないとは限りません。言葉は心の音とも言われますとか。不思議な力を持っております。私達は綺麗な日本語と心温まる鹿児島語の中で育ちました。国語を愛し、方言をなつかしむ事は、国を大切に作る事につながると思います。患者の私達は職員皆様の優しく、時にはきびしい一言を心の支えとして療養への意欲を高めております。超高齢の仲間入りした私達。今後は老いては子に従え、の教えを守り若い方々のアドバイスを受けながら、決して人様を傷つける事のない様、心して療養に専念したいと思います。

俳句

西屋敷喜美子

荒梅雨や 見舞の電話 次々と

早朝の 夫の日課や 草を引く

鹿児島の誇りー感銘を与へ勝ち得たベスト4

宮園辰夫

第88回全国高校野球選手権大会は、鹿児島工業がベスト4まで進み、殊に盛り上げてくれた。鹿児島県代表として、県立高校が甲子園にいくなんて何十年振りなんだろう。鹿工も県代表として初めての出場で、全国にその名をとどろかせてくれました。そしてくじ運が良かったとは云へ、それまでの体調管理が大変な事だったと思う。それも皆工業高校の裏方さん、ご家族の方、等々の一言に尽きる。

又、戦いぶりも誠にさわやかだった。監督の下、今吉選手の健闘ぶりや榎下、下茂両投手が、しっかり支えてくれて、あの初戦の高知商。名門高ですから、誰もが1回戦で負けて帰るんじゃないかと、みなそう思っていたと思う。所がどうです。歴史的な1勝を挙げた。32年前の定岡投手を擁した鹿実の大健闘を思い出した。所で、また四国勢の香川西戦。四国勢はどこもねばり強く、しぶといから今度は負けかなと思いきや、十七安打の猛攻で激戦を制した。県民は皆が夢ぢやないかとびっくりした。みんなに勇気を与えてくれた。

いよいよ次は準々決勝。それが又あの福知山成美高。この学校も一癖ある高校ですから熱戦でした。はらはらしているうち、とうとう延長戦になり駄目かと思いきや、10回劇的な勝ち越し本塁打で準決勝へ進んだ。選手は皆さわやかに早稲田実業に備へた。しかし、相手はどうして優勝候補の早実で、一点も取ることが出来ず涙を流した。しかし、選手は一丸となって攻守にわたり戦った。その戦い振りに、球場の大観衆から、惜しみない拍手がいつまでも続いた。そして鯨島主将が「なんっあならん」。本当にそうであった。県民、選手も3回校歌を堂々と歌い、大会の総評でも称えられていた。野球留学生を受け入れている学校とは違うことを自慢して胸を張ってほしい。県民の一員として本当に心からおめでとう、そしてお疲れさまと云わせて下さい。

短歌

大雨の増水にダム放水と重なりてさつまの町は廃墟と帰す

体力を保たんと朝夕歩み行く廃墟の町を哀れみ乍ら

=====**狂句**===== キンカン

苦手ん歌廻って来たや弱虫^{やっせんぼ}は逃げ

動かん亭主^{ととめし}世辞^{じく}で動かす利口^かな女房^か

=====**知っておきたい日本語**===== 貴島高則

刺身：切るのになぜ「刺す」

足がつく：どこにつくのか。

箱入り娘：どんな箱に入っているのか。

無骨な男：骨はあるのか。

てんてこ舞する：踊っているひまがあるのか。

お茶をにごす：どんなお茶になる。

ウマが合う：牛とは合わぬのか。

水商売：酒を売るのになぜ水か。

しっぺ返し：何を返すのか。

耳をそろえる：さぞかしよく聞こえる。

血みどろ：血まみれとみどろはどうちがう。

あわよくば：どんなあわが良いのか。

村八分：残りの二分は何か。

笑い話

ある夏の日、富山の薬売りが重い薬箱を背に峠を登りかけていました。ところが急に一天にわかにかき曇って、にわか雨が降りだして雷がなりはじめました。薬売りは、あはてて近くの木の下に、かけより雨をしのいでいましたところ、ちょうどその木の上でゴロゴロと大きくなった雷が雲の上から、何やら、ポトリと落としました。何だろうと思って、その薬売りがそれを拾ってみたところ、それは二重になった重箱でした。上の段を開けてみたところ、「オヘソ」が一杯つままっているので、さてそれなら二段目の重箱には何があるだろうと薬売りが独り言を言いながら、二段目の重箱の蓋に手をかけたところ、雲の上から顔を出した女の雷様が「その下を見ちやいやよ」と言いました。おしまい。

勝ちか・・・それとも引き分けか 匿名希望

北薩病院を退院して、もう6年が過ぎようとしています。平成12年11月に胃癌のため胃全部を摘出しました。運が良いのか悪いのか、癌は初期のものが3つ、胃のど真ん中に鎮座していました。以前に『さざんか』に「オーイ、おれ癌なんだって」を投稿しました。今も元気で毎日を過ごしています。入院中は、家族、兄弟、親戚に心配をかけましたが、今は前みたいに「アゴ」を弾けるようになりました。また、幾度か入退院を繰り返しましたが、そのたび、医師、看護師の皆さんの手厚い看護のおかげで今に至っています。今も月に1～2回通院しています。今は外科だけでなく、内科にもお世話になっています。友人に「別な病気が出た」と愚痴ると「年やが、ないでん出てくつとよ」と返されました。言わなきゃよかった。

最近、プロ野球の王監督が胃の手術をしました。「退院するのが早いなー」と思っていたのですが、すぐ病院へカムバックしました。食事の仕方が悪かったらしいとの事ですが、「普通に食べられるようになるまで苦労するだろうな」「物を食べる辛さを味わっているだろうな」「少しで済ますと検査で栄養状態が悪いと指摘されるんだよな」と経験者なら思っているでしょう。私も慣れるまで何度も何度も言われました。ガンバレ、王監督！しばらくは一日中口に物を入れながら過ごしましょう。

話は変わりますが、私の日課は散歩です。暑いときは1万歩以内、それ以外は1万歩以上歩きます。景色を眺めて毎日テクテク、四季折々いろいろ違って楽しいですよ。コースはその時によって変えています。多くの人が朝6時には歩いています。体調が良いからといって無理はしません。大きな手術をして退院すると、物の観方がだいぶ違ってきます。入院も案外すてたものではないですね。この考え、私だけですかね。

平成17年10月に主治医の先生から、「この薬はもう服用しなくていいです。止めますか」と言われました。その薬は抗癌剤です。5年間服用してきました。」診察が終わって廊下へ出たら、思わず目頭が熱くなりました。妻に「良かったね」と言われてホロリ……。もう私が入院していた時の看護師さんは少なくなっていますが、顔見知りの看護師さんは廊下で会うとよく声を掛けてくれます。少し心強くなります……。少しでゴメン。

だいぶ朝晩は涼しくなってきましたが、昼間はまだ水が手放せません。理由は『胃』という『水筒』が無いからです。飲んだら直接腸にいけます。いろいろありますが、上手に病気と付き合い、せいぜい長生きして周りをビックリさせてやるぞ……………。

県立北薩病院の基本方針

- 1 患者さんの満足、ご家族の安心を提供します
 - 2 急性期医療の実践と、より高い専門医療を追求します
 - 3 地域の医療、福祉との連携を強め、これを支援します
 - 4 仕事を通して喜びと生き甲斐を追求します
-
-

雲

時吉政江

体調のいい日は一本のくろがねの木の下で過ごす。20年くらいになるだろうか。赤い実をつける冬になると、ひよどりやめじろが何十羽も実をついばんで、見張りの鳥もいるのか、あっちにいたりこっちにきたり、チーチーチー鳴きながら食べつくす。地面には赤い実がいっぱい落ちて、2週間くらいでどこかへ行ってしまふ。

夏には風に吹かれて霧が深い朝には遠くの山々は見えない。使わなくなった畑にはあい色のつゆくさが一面に咲いて、露が水蒸気として空へ空へとたちのぼって行く。やがて空は青空になり、自分の足そのものの庭には、まつぼたんやポテラーカの小さな花が朝9時半ころからいっせいに咲きはじめて、夏の猛暑には時にかなって美しく咲くのです。

平成の時代になりどこの家でもプランターに植えてあるのではないのでしょうか。そして遠くの山々を見ながら思う。昭和の時代の母たちは牛を飼って、野菜を作るための肥料にするためにあの山に草刈にいった。思い出を巡らしながら庭でひととき過ごす日もありません

「冬の奔流はみな海に出て行くがそれでも海が満ることはない。冬の奔流その出て行く場所へそこへ帰って行くのである」。太陽が川や海の水を水蒸気として、夜私たちが眠っている間に露をふらせてくれるのでしょうか。ひとりぼつんと空の雲を見つめていると雲が風でいろいろな形に変えている。地球が太陽の周りをぐるぐると廻っているからこそ、雲の形が美しいのだろうか。しかし、雲は日本列島の人々を豪雨の雨でいじめてかかる。本当に雲とはいじわるなものだ。

そして入院生活の私は夕方に裏玄関のスロープの所で風に吹かれて涼んでいた。ツバメたちが私の足元に来てチーチーと鳴きながら、まああなたたち今日私の誕生日だからあなたたちが動けないわたしのためにお祝いに来てくれたのネ。それはそれは楽しいひととき

でした。足元に来たりスースーと舞って私の周りをくるくる回ってくれました。昭和18年7月17日生まれ。戦争は知らないが、防空壕を兄弟と妹とはだして走って楽しい日々もあった。今はみんな他界してひとりぼっち。未だに母を追いかけて母のところにいくことなく、十年月日なり高気圧酸素器ともに北薩病院の高気圧酸素の中で生きている体力が消耗品となることはない。人として生きるって不思議だなー

編集後記

暑かった夏も終わり、過ごしやすい日がやってきました。今年は北薩地方の予想外の水害があり、あまり良い思いでの夏とはならなかった方が多いと思います。先祖代々我々日本人は、平野は狭くすぐ近くに急峻な山は迫り、河の流れも早い、という独特の自然の中で生きてきました。そのかわり、四季の絶妙の変化に恵まれるという恩恵にもあずかっています。四季の変化は日本人の繊細なところを育ててくれました。自然と共に生きながらも、被害を被ったかたの力強い復興を願っております。ただ、最近の自然が自然な自然ではなく、人工的な（環境破壊による）自然になりつつあることが心配です。 高橋。